

# 船津 功教授退職記念号によせて

札幌学院大学人文学部長

小林 好 和

2013年3月、長年にわたり本学の研究・教育の発展にご尽力されました船津功先生が定年を迎えられ、ご退職されました。季節のよい春、また秋には、船津先生が研究と講義の合い間をぬって木々の茂る大学の杜で思索するお姿を拝見いたしました。船津先生が大学を去られました、やがて先生がお好きでありました杜に新緑が芽生えて参ります。

船津功教授には長年のご功績と研究を称え、昨春、札幌学院大学名誉教授の称号が授与されました。

船津先生は中央大学文学部史学科を卒業された後、北海道大学大学院文学研究科博士課程日本史学専攻で研究を継続されました。1977年4月、札幌商科大学人文学部の開設と同時に人間科学科専任講師として着任され、1983年に助教授、1990年に校名変更をした札幌学院大学教授となられております。ご在職中には「明治維新史」、また「北海道史」をテーマとして膨大な著書、論文、さらに学会での発表を蓄積されて参りました。なかでも1992年、北海道大学図書刊行会より出版された『北海道議会開設運動の研究』（札幌学院大学選書）は、函館や小樽などに残る史料を丹念に収集・整理すると同時に、その基底に「北海道議会開設運動を自由民権運動の一種と考える見解」を据えた研究であり、学会からも高い評価を受けた大作でありました。

船津先生のご出身地である群馬県は旧石器時代の石器が発見された岩宿遺跡、また天武天皇によって建てられた上野国分寺など、歴史の遺跡の多い地であり、先生ご自身は幼い頃、前方後円墳の上で鬼ごっこに興じたと述懐されておりました。先生の人生は常に歴史と共にあった、本学で「北海道近世・近代史」などの講義に加え「船津ゼミ」で教育を受けた多くの学生は、先生の講義を通して、文字通り「歴史に吸い込まれていく」実のある学びを経験されたのではと拝察いたします。先生は、たとえば静内にあるアイヌの英雄シャクシャインなど、学生を歴史の現場へ誘い、彼らは像の前で興味深々の表情を浮かべていたこともございました。その上で、「北海道開拓」「明治維新时期における蝦夷地観」「近代北海道漁業史」「北海道十勝地方の開拓」など、地域の独自の歴史に焦点を当て人間を歴史的・多角的に捉える卒業論文の集積へ導くなど、人文学部の教育を36年にわたり牽引されました。また船津先生はご退職の間際に至るまで、大学生生活協同組合理事長、人間科学科長、本学学生部長として力を尽くされました。

先生は、ピカソやゴッホなどの絵画、黒沢明、小津安二郎監督の映画を愛する文化人でもあります。改めて先生にお会いし、人間の深い洞察に満ちたお話しをお聞きすることができたらと願うばかりです。長年のご尽力に改めて敬意と感謝の念を表し、豊かな日を迎えられることを祈念し、ここに記念号を編み船津功名誉教授に捧げることといたします。